

「サイバーインシデント演習in名古屋」を開催

＜主に中小企業・団体の経営層やセキュリティ責任者等を対象に実施＞

東海総合通信局（局長 北林 大昌）は、令和6年1月24日、オフィスパーク名駅プレミアホール&会議室（名古屋市中村区）にて経済産業省中部経済産業局との共催により「サイバーインシデント演習in名古屋」を開催し、あいにくの雪模様にも関わらず30名の会場参加がありました（10名がオンライン聴講）。この演習は、主に中小企業・団体の経営層やセキュリティ責任者等を対象としており、サイバー攻撃への備えとして、疑似的なインシデント発生時の対応手順を体験することにより、組織内の基本方針やルールなどを考えていただくことを目的としています。

本演習は2部構成となっており、株式会社川口設計 代表取締役の川口洋氏を講師に、第1部ではサイバー攻撃から事業を守るために考えるべきことについて講演を行い、第2部では「フィッシングサイト経由での個人情報漏えい事案の発生」を題材に、グループワークによる演習を行いました。

グループワークは、初対面の参加者で4～5名ずつのグループを作り、「営業社員が業務用パソコン不調を理由に私用パソコンを使っているが、セキュリティ対策上の注意点は何か」や「顧客情報が漏えいしているとの情報が入った際、どのような原因が考えられるか」など、インシデント発生時に必要となる対応に関する課題について各グループでディスカッションし、それぞれのグループ代表者から発表をしていただきました。

グループワークを通じて会場は大変良い雰囲気でお互いに打ち解け合い、地域での「横の繋がり」もできたのではないかと思います。参加者からは「セキュリティ対策は技術的課題より組織的課題が大きいことが理解できた」や「演習内容を社内でも取り組みたい」など、サイバーセキュリティ対策への意識に変化が生じたとの感想が多く寄せられました。

東海総合通信局では、引き続きイベント等を通じて、地域のサイバーセキュリティ対策の向上に向けて取組を進めていきます。

【問合せ先】電気通信事業課 052-971-9403



【講義を行う川口洋講師】



【グループワークの様子】



【グループ代表者による発表の様子】